

① 火山
② 手出し
③ 村人

④ いっけん
⑤ とお

②
1 A エ
B ア
2 イ

3 ウ
4 ふしぎな男の子

5 かんしん

③
① ア
② オ
③ ク
④ イ
⑤ キ
⑥ ウ

④
1 空気の

2 つめたい空気

3 イ

4 ア 2
イ 2
ウ 1

配点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

①の「火」は二つの点を先に書いてから、中の「人」を書くことに気をつけよう。②の「手出し」の「出」は「山」を二つかさねるのではなく、まん中のたてぼうを一画で書く。③の「村」は「材」のようにならないように、最後の点をきちんと書く。④の「百聞は一見にしかず」は「人から聞くよりも自分で見たほうがよくわかる」という意味のことわざである。ことわざに出てくるかん字も書けるようにしっかりと覚えておこう。⑤の「十」は「一つ、二つ」とかぞえるときは訓読みの「とお」と読む。「とう」ではなく「とお」と書くことに気をつけよう。

②

1 (A)は「だれかにいたくてたまりません」ということから「おかあさんにちょっとだけはなしました」という自然なながれになっているのでエの「それで」があてはまる。(B)は「絵をかくのがすきだった」のであれば何の絵でもかいているはずなのに、「女の子の絵ばかり、かいていた(動物の絵はかいたことがなかった)」というつながりになっているのでアの「でも」があてはまる。

2 —線①のあとでおかあさんが「こんな町のちかくに、たぬきがいるなんてへんよ」と言っているので、これがおかあさんがおどろいている理由であると思われる。

3 すぐあとであいちゃんが「ねこじゃないもん」と言っているので、おかあさんはねこにかかわることを言ったとわかる。「おぼけ」も「ゆめ」もはいりそうだが、文章に書いてあることから答えをきめていこう。

4 文章のはじめに「あいちゃんは、たぬきとふしぎな男の子にであった」と書いてあったことから、いっしょにいたのは「ふしぎな男の子」であるとわかる。答えやヒントをさがすときは問いや—線のちかくにあることばをたどっていくと見つかりやすいことも覚えておこう。

5 「ためいきをつく」というようすはふつう気もちがおちこんでいることをあらわすが、ここでは二行あとに「おかあさんはすっかりかんしんして」とあるので、この「かんしん」がおかあさんの気もちをあらわすことばであるとわかる。「ためいき」はわるいことだけでなく、何かに見とれてうっとりしているときにもつくことがあるので覚えておこう。

③

ようすをあらわすことばの上になにかの文字がついて、意味をつよめたりかぎったりしていることばの問題である。

- ① 「ほそい」の上に「か」がついた「かほそい」は「よわよわしい」という意味をつよめている。
- ② 「やすい」の上に「た」がついた「たやすい」は「かんたんである」という意味をつよめている。
- ③ 「あたらしい」の上に「ま」がついた「まあたらしい」は「まっさらできれいである」という意味にかぎっている。
- ④ 「まじめ」の上に「き」がついた「きまじめ」は「まじめ」であるという意味をつよめている。
- ⑤ 「ふとい」の上に「ず」がついた「ずぶとい」は「あつかましい」という意味をつよめている。
- ⑥ 「はやい」の上に「す」がついた「すばやい」は「はやい」という意味をつよめている。

④

1 —線①のつづきを読んでいくと、「鼻くうのかべがはれて、空気の通っていく道がせまくな」と書いているので、「鼻くう」とは「空気の通っていく道」だとわかる。

2 ②の前にある「そんなとき」とは「のどや気管のねん膜がはれて、つめたい空気が神経をしげき」するときなので、マスクがはいらないようにしているものはのどや気管のねん膜をしげきする「つめたい空気」であると思われる。

3 すぐあとに「どんなにあついマスクをしたって、バイ菌はぬのをくぐってはいつてきてしまう」とあるのでバイ菌はふせげないことがわかる。ウの「子どもだったら」というのは年のちがいにについては文章に書いていないのであてはまらない。

4 アは「せきがひどくなる」せいで「のどから血が出る」のであって、「のどから血が出る」せいで「せきがひどくなる」とは書かれていないのでまちがいである。イはたしかに「マスク」も「うがい」もバイ菌をふせぐのにやくだが、「マスクをつけたまま」とは書かれていないので、これもあやまりである。ウは少しむずかしかったかもしれないが、本文の四行めに口で息をすると、「のどがからから、ごみもバイ菌もそのまま気管にはいつてしまう」と書かれていたことから口で息をせず鼻で息をすればウにあるように「すった息はしめっていくうえにバイ菌もふせぐこともできる」とわかる。